



令和2年10月

本園に就職を希望する方へ・幼稚園のご案内



神明幼稚園 〒135-0004 東京都江東区森下1-3-17

TEL : 03-3632-8793 FAX : 03-3631-5564

<http://www.shinmei-asobi.com/>

神明さまに見守られて

神明幼稚園は、深川神明宮の境内にある「神社の幼稚園」です。鳥居をくぐって幼稚園に登園してきた子どもたちは、まず親子で神さまに手をあわせ、「正直なよい子になりますように」とおまいりをします。神さまに見守られて幼児期を過ごすことで、子どもたちは健やかに心豊かに育ちます。

クラス編成・保育者の配置

3歳・年少 / 4歳・年中 / 5歳・年長 各2クラスずつ、合計6クラス。定員140人の幼稚園です。

保育者は、各クラスの担任6名とフリーの保育者6名、合計12名の保育者に、必要に応じて補助の保育者を加えて保育をしています。

	クラス	担任	フリー・補助	園児数
あか(年少)	2	2	6+ α	49
きい(年中)	2	2		39
あお(年長)	2	2		48
合計	6		12+ α	136

※ 園児数・職員数は令和2年5月1日現在

※ 令和2年度は12名の保育者に加え、必要に応じて毎日2～3名を加配しています。

一日の流れ

登園してから10時半までの1時間半、そしてお弁当の後にも1時間「自由遊びの時間」を年間を通じてたっぷり確保するようにしています。子どもたちは本来、遊びの達人です。自分からやりたいことを見つけてほしいと願っています。一方、クラスの活動では保育者が活動のテーマを決めて提供します。子どもたちが興味を持って進んで活動に参加するように、年齢と発達段階に相応しい活動を工夫しています。色を塗ったり紙を切ったりの造形活動。歌を歌う、ダンス、劇遊びなどの表現活動。おにごっこなどのルールのある遊び。お当番の活動を通じて集団の中で役割を果たすことを学ぶのもたいせつです。

。平日(月・火・木・金)		水曜日	
8:40～9:00	登園	8:40～9:00	登園
9:00～11:00	自由遊び	9:00～10:00	自由遊び
11:00～12:00	クラス活動	10:00～11:00	クラス活動
12:00～12:30	お弁当	11:00～11:30	お帰りの会
12:30～14:00	自由遊び		
14:00～14:30	お帰りの会		

※ 上の時間はおおよその目安です。

「あそびこむ」が神明幼稚園のテーマです

幼児期の子どもたちは、夢中になって遊ぶことを通じてたくさんのことを経験し、心も身体も健やかに育ちます。神明幼稚園は、子どもたちに「充実した遊び」を保障することを、いちばん大事にしています。

自由遊びの時間に「砂場でダムを作りたい」と自ら思って遊ぶこと。仲間と協力して片づけること。クラス活動の時間に先生の説明を聞いて製作をすること。クラスのみんなとお弁当を食べること。子どもたちにとって園生活のすべての時間が「あそびこむ」です。意欲を持って過ごす幼稚園の日々の積み重ねの中で、だんだんと自分で自分のことができるようになり、お友だちとかかわる喜びを知り、仲間と共に自分から何かを成し遂げようとする子どもに成長していきます。

～あそびこむとは～

遊びの中に学びがある

子どもたちが心から楽しいと感じ、自ら意欲を持つように環境を整え、**3歳4歳5歳の発達段階**に相応しい課題を意識して、子どもたちを見守り援助することが保育者の役割です。遊びを通じて育つ子どもたちを、私たちはゆっくりと温かく見守っていきたいと思います。

五感を通じて知る経験 = 生きる力を育む

幼稚園で過ごす3歳・4歳・5歳の3年間は、まさに人生の土台作りです。幼児期の教育で大切なことは2つ。一つは「**五感を通じて知る経験**」をしっかりとすること。もう一つは「**個性の発揮**」と「**抑制の学習**」のバランスです。神明幼稚園では、自由遊びとクラスの活動を通じて、ゆっくりと流れる時間と豊かな環境の中で、子どもたちは幼児期に大切な経験をたくさんすることができます。そして、大勢のいろいろな個性を持ったお友だちと温かい眼差しの先生たちが見守る中で関わり、生きる力をしっかりと育てていきます。

人として心地よく 人として楽しく 人と成し遂げてうれしい そういう子どもに育てたい

子どもは子どもの中で育つ。おおぜいの仲間とともに集団の中で学ぶことがあります。入園当初は「お母さ～ん！」と言って泣いていた子どもたち。やがて幼稚園の先生がおうちの人と同じように信頼できる存在であることを知り、次第に関心を周囲の仲間を広げていきます。4歳児では子どもたちの世界はさらに広がり、自分とは違う存在である仲間たちと関わる楽しさを知っていきます。5歳児では日々の生活や活動、運動会などの行事の活動を仲間と協力して成し遂げる経験をしていきます。3歳・4歳・5歳の年齢に相応しい課題を、子どもたちの歩みに合わせてゆっくり見守っていきたいと思います。

園長のコラムから やりたいからやること やりたくないけどやること

園長は最近、幼稚園の子ども達の生活場面について、こんなマトリクス図を考えてみました。縦軸には、やりたいか、やりたくないか。横軸には、やるか、やらないか。すると図のような4つの領域が出来ました。

	やる	やらない
やりたい	やりたいからやる	やりたいけどやらない
やりたくない	やりたくないけどやる	やりたくないからやらない

私は、神明幼稚園の子どもたちに幼稚園の生活を通じて、この4つの経験を全部、しっかりとしてほしいと願っています。

「やりたいからやる」

1つ目の「やりたいからやる」こと。これは言うまでもなく、幼児期の子どもたちにとってとても大切な経験です。幼稚園で出会うさまざまなことに興味を持ち、意欲を持って取り組む子になってほしいと思います。自由遊びの時間では、自分からやりたい遊びを見つけて、それを自ら工夫して発展させていく子どもたちに育ててほしいですし、クラスの時間では先生が提供する活動に自ら興味を持って取り組んでくれるように、私たちはいつも言葉かけや環境設定に工夫をしています。

「やりたくないけどやる」

2つ目の「やりたくないけどやる」こと。これも①と同様に幼児期の子どもたちにとって大切な経験です。楽しく遊んだ後のお片づけ。面倒くさいかもしれないけれど、次の日も楽しく遊ぶためにはやらなくてはならないことです。最初は「やりたくないからやらない」から始まって、でも幼稚園での生活を通じて、やりたくないけど「やらなくちゃいけないから」やる、と「折り合いをつける」ことも子どもたちは学んで成長していきます。

「やりたいけどやらない」

3つ目の「やりたいけどやらない」ことも大切です。自由遊びの時間にお砂場でどろだんごを作り始めたからお片づけの時間になってしまったとき。ターザンロープがやりたくて園庭に飛び出していったら先に他のお友だちが遊んでいたとき。園の生活の中ではそんな場面がしばしばあります。自分の感情と状況に不一致が生じる場面ですが、それはこれからの人生ではたくさんあることです。「情動の抑制」と言いますが、要するに「がまんする」ということも3歳4歳5歳なりに身につけてほしいと思います。

「やりたくないからやらない」

4つ目は「やりたくないからやらない」こと。これも時には必要な経験です。いつも活発な子の意見に従っていた子が、「いやだ！僕はこれがやりたいんだ！」と主張したとしたら、そのことは認められるべきだと私は思います。いつも「いやだいやだ」では困りますが、時には断固拒否すべき場面も長い人生の中では必ずあるからです。

考えてみれば、この4つの経験は人生の続く限り継続するテーマなのかもしれません。私たち大人の日常もこの4つの領域の繰り返しです。そんな温かい目で子どもたちを見守っていきたいですね。